

地域資源の価値を再認識するためのノウハウに関する研究

－「ブラタモリ」にみる風景の紐解き方－

九州工業大学 学生会員 木村俊介, 正会員 吉武哲信

1. 研究の背景と目的

近年、我が国ではインスタグラム等SNSの普及に伴い、写真を撮ることなどを観光の目的とした消費型ツーリズムが拡大している一方で、地域に目を向けた観光、学習型ツーリズムを推進する動きもある¹⁾。学習型ツーリズムでは地域資源の魅力を訪問客に伝えることで、訪問客が地域の価値を理解することを促し、その結果、地域資源の保全や関係人口の獲得につながる²⁾ことが期待される。ただし、この推進にあたっては地域の魅力を伝えることができる住民の存在が前提となる。したがってまずはガイドとなる住民が地域資源の価値を再認識することから始める必要がある。なお、日本風景街道の取り組みの中には、住民が地域資源の価値を再認識するための活動も展開され、九州風景街道でも各地で同様の活動が展開されている。

さてこれらの活動においての課題は、住民がその価値を再認識するためには、どのようにすればよいかということである。本研究ではこの点についてNHK放送のブラタモリに注目したい。同番組では地域風景の成り立ちを様々な視点を組み合わせて紐解くことで、地域の新たな魅力や歴史・文化などを再発見する。この番組の構成手法を地域理解のノウハウとして整理することは、地域資源の価値を再認識する手立てを考える一助となろう。実際ブラタモリは地理学、地質学、地盤工学、歴史学等の各種団体から多数表彰されており、番組の手法を考察することは意義あることと考えられる。

以上のことから本研究では、学習型ツーリズム推進のための第一歩として、住民が地域資源の再認識に至るためのノウハウとして、ブラタモリの手法を分析・考察し、風景の紐解き方の手引を作成することを目的とする。

2. 研究の枠組みと手順

本研究は、a)風景を紐解く視点の一覧と、b)複数の視点の活用パターンで構成される風景の紐解き方の手引を、ブラタモリで用いられる手法を参考に、作成するものである。a)風景を紐解く視点の一覧では、地域風景の成り立ちを理解するためにどのような視点から風景を紐解くのか、その視点を整理するもので、第1段階として筆者らで視点の整理を行い一覧のベースとなるものを作成する。次いで第2

表1 地域を眺める視点

視点	要素(例)
地形・地勢	高度、起伏、勾配、規模、成り立ち、 位置関係、その土地が果たす役割(交通結節点、くに境など) 豊仙普賢岳、火山噴火半島(島原半島)、火山麓状地、千々岩断崖、 橋湾(円弧状の高岸線)、田代断層盆地 長崎県南部・島原半島の北西に位置(豊仙普賢岳を取り巻くように位置)
水	川の水量・変動・傾斜、土地と水面との高低差、湧き水、地下水 豊仙山系がもたらす豊富な水
地質・土質	水はけ、土壌成分、鉱物資源、温泉 火山がもたらした肥沃な土壌(養分、ミネラル、硫黄など)、小浜温泉
気候	気温、湿度、雨量、風、日照、季節変動 温暖気候(年2回10~23°の時期がある)、亜熱帯気候
植生	樹木の種類、原生林、人工林 ジャカランタ並木、ミヤマキリシマ
交通	道、鉄道、船 昭和13年に廃止となった粟野から小浜間の鉄道(通称:温泉鉄道) 国道57号(豊仙道路)、国道251号、県道北野千々岩線(線のトンネル)
技術・エネルギー	人力、水力(水車等)、重機 蒸気機関、石油、電気 石積、コンクリート 赤土を客土する農業は石油・エネルギー技術のためのも 石垣をつくる技術(日向平欄田、大迫欄田、岳欄田)
産業	第1次産業、第2次産業、第3次産業 農業(地形・気候・土質を活かしたじゃがいも栽培)、 観光業(豊仙八万地獄、小浜温泉)
制度・事業	園地整備事業、交通関係、都市計画・観光関係の法律との関係など 豊津原地区農地整備

注) 要素(例)は上段に一般論的な要素、下段太字で島原うみやま街道で着目された要素を示す。

段階として、視点の一覧のベースが必要十分かを確認するためにブラタモリの各番組で活用された視点を抽出し、視点一覧を追加・修正する。

その上でb)複数の視点の活用パターンでは、風景の紐解くに当たって具体的にどのような視点が組み合わせられるかの傾向を見いだすため、ブラタモリ各番組での視点の組み合わせを把握する。

3. 手引作成のための調査・分析

【ベースの作成】

筆者らが九州風景街道の一つである島原うみやま街道において、当たり前風景を地域資源として捉えなおすことを目指して行った風景診断のために作成した視点の一覧を表1に示す。表中の要素(例)は各視点を具体的に分解した着眼点の例である。ここで、要素(例)の上段に一般論的な要素を示し、下段太字で島原うみやま街道での風景診断で着目された要素を示した。表1では、土地の高低や起伏の形態、地理的な位置等の「地形・地勢」、川や湧水等の「水」、地域の地層や地盤等の「地質・土質」、そのほか、「気候」、「植生」、「交通」、そして、人の手で風景に手を加える際の制約条件としての「技術・エネルギー」、生業・経済活動等の「産業」、風景の形成に影響を与える制度や

表2 ブラタモリのテーマとストーリー(長崎)

坂の町・長崎の始まりとは？	
テーマ…異国の玄関口として繁栄し、「坂の町」となった経緯を理解する	
◇	坂の町ならではの生活の知恵(エレベーター、三角溝、ごみ収集)
◇	洋館から見える風景と古写真を比較
➢	もともとは海と山に囲まれた平地の町だった
➢	一開国し、港ができ、外国人居留地となり、段々畑に家が建って山の上へへと開発が進んだ
◇	鎖国下で貿易を行っていた出島
➢	埋め立てられた出島のもともとの岸壁の位置を示す印が道路にある
➢	歴史的価値が見直され発掘・復元作業が行われている(石積みや江戸時代貿易品の古伊万里など)
◇	現在の地図と昔の地形図を比較(どこが埋め立てられたのか分かる、昔は細長い岬があった)
➢	地名(長い岬が変化して長崎になった)
➢	地形の高低差(高い石垣がある場所がもとの陸地と埋立地の境目・海食崖の痕跡、船津町一昔の港)
➢	道路の不自然な盛り上がり+石橋電停という名前(大浦橋が埋め立てられ暗渠になっている)

事業について「制度・事業」の各視点で整理した。

島原うみやま街道の具体的な要素としてたとえば「地形・地勢」では雲仙岳の噴火によってできた島原半島がある。火山がもたらした恩恵として「地質・土質」では肥沃な土壌や小浜温泉がある。また「交通」については小浜温泉発展を期待して敷設された温泉鉄道がある。このように視点・要素は連関しており、視点・要素の連関は風景の紐解きにおいて留意する必要がある。

【ブラタモリ各番組の分析】

ブラタモリ各番組の分析は、番組内容が細部まで説明される書籍版³⁾(既発行の1~18巻)を対象とする。

(1) 調査方法

ブラタモリの各番組は、まず番組が着目したいテーマがあり、そのテーマを解き明かすために必要な幾つかの視点が提示され、解説される。地域は本来、様々な様相を有するため、切り口(テーマ)を設定することで初めて活用する視点を定めることが可能になる。また本来、地域を眺めるテーマは多様・無限に設定しうるため、テーマごとに異なる視点やその組み合わせが設定できるが、番組はその一つに限定した構成になっているということとなる。なお、ブラタモリの各番組では「お題」があるが、具体的なテーマは説明されていない。そのため本研究ではブラタモリ各番組の内容について考察し、それに沿ったテーマを筆者らが追加することとした。

表2に2015年4月放送の「坂の町・長崎の始まりとは？」という「お題」の回のテーマとストーリーを示す。この回では長崎の町が開港以降のように発展したかについて、開発前の町の姿や地形に着目したストーリーとなっている。したがってテーマとしては「異国の玄関口として繁栄し、坂の町となった経緯を理解する」ことと解釈する。

(2) 視点と要素の整理

表2の内容を、表1の視点・要素を参照しながら整理した結果を表3に示す。生活や産業の基盤となる「インフラ」、現存する「建築物」、人々の暮らしについて着目する「文

表3 ブラタモリ分析(長崎)

視点	要素(例)	連関する視点・要素
地形・地勢	平地(海と山に囲まれている)、坂の町、埋立地、細長い岬、海食崖	埋め立て(インフラ)以前の地形である 平地・細長い岬・海食崖に着目 地形の高低差・境目に着目
	交通	道路の不自然な盛り上がりには暗渠となった石橋がある
時間軸・インフラ	石垣、石橋、暗渠、埋め立て	埋め立て以前のもの・関連して造られたものに着目
	建築物	外国人居留地の名残で洋館がある
歴史的制度・事業	出島の発掘・復元作業(岸壁の印・石積み・貿易品の古伊万里など)	出島の岸壁の印(地形)、石積み(インフラ)、貿易品(産業)
	文化	坂の町ならではの生活の知恵(エレベーター・三角溝・ごみ収集)
開発	開国し、港ができ、外国人居留地となり、海が埋め立てられ段々畑に家が建って山の上へと開発が進んだ	開国(制度)、港・埋め立て(インフラ)、外国人居留地(制度)
	地名	細長い岬が変化して長崎になったといわれている かつての船着場だった痕跡として舟津町の名が残っている

※手がかり…古写真、昔の地形図

化」、町の発展に関して「開発」、そして地域の性格を表現する「地名」を新たな視点として追加した。さらにすべての視点に共通する視点として「時間軸・歴史的観点」を追加した。このように、視点は各回の分析を踏まえて追加・修正していく。また連関する視点・要素は、各視点から風景を紐解く際に、使われた視点・要素である。加えて各視点から風景を紐解く際にヒントを与えるものについて表外の手がかりで整理する。

たとえば表2の「坂の町ならではの生活の知恵」は、視点としては「文化」であるが、連関する視点・要素は「坂の町(地形)」、「エレベーター・三角溝(インフラ)」である。なお、表2内の「洋館から見える風景と古写真を比較」の古写真は、各視点から風景の時間的変貌を見る手段に、「現在の地図と昔の地形図を比較」の昔の地形図は、「地形・地勢」・「開発」等の視点から地形の時間的変貌・元来の姿を見る手段となることから「手がかり」として整理した。

【a) 風景を紐解く視点の一覧の作成】

現在、ブラタモリ書籍版のすべてに関し分析を進めているところである。「坂の町・長崎の始まりとは？」というお題の回で追加された視点は、インフラ、建築物、文化、開発、地名となった。発表時には全番組の分析結果を提示したい。

【b) 複数の視点の活用パターンの作成】

今後、上記の手順でブラタモリ各番組の分析を進め、連関して使われた視点・要素をもとに類似テーマでの視点の使い方について分析を進める予定である。またテーマに限らず視点の使い方について一定のパターンがあるかについても検証していく。結果は講演時に報告する。

4. 参考文献

- 1) 環境省：エコツーリズムのすすめ、<https://www.env.go.jp/nature/ecotourism/try-ecotourism/about/index.html>, 2022年12月。
- 2) 佐野浩祥：マイクロツーリズムの実態と地域愛着との関係—シリアスな観光に着目した Web アンケート調査をもとに—, 観光研究, vol.33, No.3, pp.11-18, 2021。
- 3) 監修=NHK ブラタモリ制作班：ブラタモリ 1~18巻, 角川書店, 2016~2019。